2026 年度

ウズベキスタン派遣

人との交流

・現地の大学生と２日間交流し、お互いの国についてプレゼンをしました。バザール（市場）で値切り交渉をしたり、折り紙やカルタをしたり、一緒にご飯を食べたりする中で、文化を教えあうだけでなく、一緒に時間を過ごすことも大切な交流だと感じました。また、美術館では英語が話せない小学生が私たちに話しかけてきてくれ、言葉が通じなくても気持ちを伝えあえることを実感しました。

ウズベキスタンの文化

・レギスタン広場やモスクなどの青い建物、プロフ（ピラフ）などの食文化、スザニ（シルクカーペット）・陶芸・サマルカンドペーパーなどの伝統文化に触れました。特にシルクカーペットは、一人で１～２年かけて作ると知り、伝統を受け継ぐ人々の技術や思いを感じました。実際に見て、触れて、食べることで、調べるだけではわからない文化を知ることができました。

知らなかった世界を知る

・私は以前マレーシアに留学しており、イスラム教について興味があったのですが、ウズベキスタンでは、同じイスラム教でもマレーシアとは服装や生活の様子が違うことに気が付きました。また、カラカルパクスタンのように、同じ国の中にも独自の言語や文化を持つ地域があることをJICA でのお話から知りました。そして、世界について知れば知るほど、今まで当たり前だと思っていた日本の文化や生活についても考えるようになりました。

人との出会い

・今回の派遣では、ウズベキスタンの大学生や小学生、バザールの人たち、そして一緒に参加した名古屋市の高校生など、たくさんの人と出会いました。JICA で聞いた「人生なんて、きっかけひとつ」という言葉のように、この派遣がなければ出会えなかった人たちとの出会いが、私の世界を広げてくれました。